

第 20 回 IVF 学会学術集会

P-4

仙台, 2017. 9. 30-10. 1

当院における初診から 1 年以内の治療の転帰

¹饒平名 里美、¹一色 納菜子、¹小林 亮太、¹水野 里志、¹井田 守、¹福田 愛作、²森本 義晴

¹IVF 大阪クリニック、²HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】近年、女性の社会進出に伴う晩婚化や生活習慣などの要因から、不妊治療を受ける患者は年々増加している。一方、長期にわたり治療を繰り返す患者も多く、治療長期化は患者の経済的および精神的な負担を増加させている。当院の妊娠による卒業者数は年間約 800 組であるが、その治療期間や治療方法は様々である。これまで妊娠卒業までに要した期間を調査した報告はあるが、特定の期間内における治療の転帰を調査した報告はほとんどない。そこで我々は、一定期間内の治療結果を年齢および方法別に比較検討した。

【対象】2015 年 4 月～2016 年 3 月に初診を受けた 1293 組を対象とした。初診年齢を A 群：29 歳以下、B 群：30 歳～34 歳以下、C 群：35 歳～39 歳以下、D 群：40 歳以上の 4 群に分類し初診日から一年間の治療歴を比較した。治療は一般不妊治療（タイミング療法・人工授精）および体外受精に分け、総来院回数が 5 回未満の患者は治療を実施していないと判断した。またタイミング療法は、超音波検査を実施し医師の指導のもと夫婦生活を持った周期とした。

【結果】各年齢層が占める割合は A 群：12.5%、B 群：33.0%、C 群：34.2%、D 群：20.4%、治療の継続率は A 群：78.9%、B 群：84.3%、C 群：88.0%、D 群：81.1%であった。一般不妊治療を実施した 661 組のうち 138 組が妊娠卒業し、卒業率は A 群：28.9%、B 群：24.4%、C 群：18.3%、D 群：4.6%で D 群において優位に低い結果となった($P<0.05$)。一方、体外受精を実施した患者は 522 組おり、そのうち 183 組が妊娠卒業した。卒業率は A 群：47.2%、B 群：48.8%、C 群：42.3%、D 群：13.7%で D 群において優位に低かった($P<0.05$)。すべての治療を合わせた卒業率は A 群：35.4%、B 群：35.1%、C 群：31.9%、D 群：12.1%であった。

【考察】来院患者数は B・C 群に多く、治療を継続しなかった患者はどの群にも一定数存在するが、C 群において最もその割合が低いことから積極的に治療に取り組む年代であると考えられる。また、一般不妊治療と体外受精の卒業率はどちらも D 群において有意に低く、更に年齢別の妊娠率を日本産婦人科学会のデータと比較したところほぼ同様の傾向を認めた。これらは一般不妊治療と体外受精の妊娠率が年齢に強く依存するとともに、治療期間の長さが妊娠率を大きく改善させることが無いことを示唆している。また、初診日から数えて一年以内の卒業率は D 群において有意に低いが他の 3 群では差を認めなかった。このこと

から不妊治療は 39 歳以下で開始することが望ましく、それにより一定の妊娠率が期待できると考えられる。